

教育再生会議の第1次報告を受けて
「ゆとり教育」の見直しについて



後藤 憲志

問 政府の教育再生会議がまとめた、第1次報告で「教育再生のための当面の取り組みとして、基礎学力強化プログラムを掲げ、そのなかで、ゆとり教育の見直しを行い、まず義務教育を中心に「読み書き計算」など基礎・基本の反復、徹底を図ることを最優先に取り組み、併せて知識を活かす応用力を身につけることも目指します」と提唱しております。今回の「ゆとり教育」の見直しに対する教育長の意見と、また、実施するためには、どのような方法・手段が考えられるのか、併せて市長の考えは

答 基礎・基本の徹底は教育における「不易」の部分であると認識をしております。したがって、学校現場も全くこれと同じ考えに基づき授業が行われて

ています。「一人ひとりの子供に基礎・基本の確実な定着を図る」ため、少人数指導や習熟度別学習を行い、個に応じたきめ細かな指導を実践しています。授業の中だけでは反復練習が不足しているため、小学校では市内5校すべての学校で、朝の時間を用いてプリント、ドリル学習に取り組み、併せて、また中学校でも漢字、計算、英単語のドリル学習をしております。ドリル学習が「自分の学習の助けになる」と感じている生徒もいるという報告を受けています。反復練習は各校で工夫した取り組みがなされておられ、今後基礎・基本の確実な定着が図られるように教育委員会も各学校に推進を依頼していきます。本来学習は「ひとり学び」が基本であり、

家庭におけるひとり学びの減少が基礎・基本の定着の障害になっていることも考えられます。家庭学習を重点に置くなかで今後どういう方向へいけばいいのかも考えていきたい。また予算が必要になるようでしたらお願いしたいと思っております。

答 基礎・基本反復重視については、大切な教育指導の1つであると考えます。基礎を固め、基本を駆使してこそ応用する力が育つものと考えます。市としては、上智大学の奈須教授を招聘し教師の授業改善のための予算的措置も行っております。市の宝である子供たちが、今後さらに学力の向上が図られるよう教育長にお願いをしています。

妊婦の歯科検診について
健康広場の設置について
若者が住みやすく子育てしやすい環境づくりを



岩瀬 初代

問 歯周病による低体重児出産、早産や生活習慣病などとの関連性が報告されている。市ではマタニティーセミナーで歯科衛生士による歯の健康チェックのみだが、母子手帳交付時に受診券を配布し、市独自で歯科検診を行っていく考えは

答 年間約360人弱の母子手帳交付ですが、マタニティーセミナーの利用者は100人弱と少ないので、受講者が増えれば歯科に対する関心も高まり教育も可能なことから、受講生を増やす方向で開催時期、事業内容等を検討していきたいと考えています。

問 若い人達が気軽に汗を流せる場所、若いお母さん達が散歩しながら子供と遊べる場として、既存の公園やゲートボール場の片隅に遊具や、バスケットボールのゴールを置く等、健康広場的な異世代交流のできる場所づくりをする考えは

答 市内には、ぶるるやB&G、地区の体育館等施設が整備されており、個々に合った運動に取り組みことができます。また大人も子供も楽しめる公園施設や各町内会ごと整備されているコミュニティ広場を活用し、工夫を凝らした遊びをすることが可能だと思います。現在の既存施設

を有効利用することが望ましいと考えます。子育て中での場所だけの提供では悩みの解決には即つながらないと考えられ、家から出て来られない人達の支援としてグループで身近な施設を幅広く利用できるようなきつけづくりのお手伝いもしていきたいと考えています。

